

(案)
【プログラム】

第1日 10月9日 (木)

開会挨拶 岡田 漱平 (日本原子力研究開発機構 理事) (10:00~10:05)

セッション1. 宇宙・エネルギー (10:05~11:20)
座長 伊藤 久義 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

1-1 国際標準化を目指した宇宙用太陽電池の放射線照射試験法の検討
今泉 充 (宇宙航空研究開発機構・研究開発本部)

1-2 MOS構造素子のシングルイベント効果の解明
高橋 芳浩 (日本大学・理工学部)

1-3 量子ビームの複合利用によるグラフト型燃料電池膜開発の進展
前川 康成 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

(休憩 10分)

セッション2-1. 先端材料・計測・基盤技術 (11:30~12:20)
座長 関 修平 (大阪大学・大学院工学研究科)

2-1 SiO₂媒質中に分散形成されたナノ結晶シリコンが実現する青色発光体
三浦 健太 (群馬大学・大学院工学研究科)

2-2 第一原理分子動力学法によるSiO₂/SiC界面の大規模数値解析
宮下 敦巳 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

(昼食 60分)

特別セッション「進化するサイクロトロン技術とその応用」 (13:20~
15:00)

座長 神谷 富裕 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

T-1 多価イオンの生成、GeVへの加速 (仮題)
横田 渉 (原子力機構・放射線高度利用施設部)

T-2 進化するサイクロトロン (仮題)
福田 光宏 (大阪大学・核物理研究センター)

T-3 宇宙線が引き起こすシングルイベント現象を解明する
久保山 智司 (宇宙航空研究開発機構・研究開発本部)

T-4 シングルイオンナノ加工
関 修平 (大阪大学・大学院工学研究科)

T-5 生物細胞に重イオンが当たると何が起こる? (仮題)

【パネル討論】

(コーヒーブレイク 20分)

ポスターセッション I. (会場: 展示室)

(15:20~17:30)

懇親会 ワシントンホテル (JR高崎駅西口側)
19:30)

(18:00 ~)

第2日 10月10日 (金)

セッション2-2. 先端材料・計測・基盤技術

(9:15~10:55)

座長 工藤 博 (筑波大学・大学院数理物質科学研究科)

2-3 陽電子マイクロビームによる材料局所の劣化解析

前川 雅樹 (原子力機構・先端基礎研究センター)

2-4 極微細加工用小型高エネルギー集束プロトンビーム描画システムの開発

石井 保行 (原子力機構・放射線高度利用施設部)

2-5 クラスタイオンの二次イオン質量分析への応用

平田 浩一 (産業技術総合研究所・計測標準研究部門)

2-6 新たなイメージング手法の確立に向けた半導体コンプトンカメラの開発

河地 有木 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

(休憩 10分)

特別講演

(11:05~11:55)

座長 田中 茂 (原子力機構・放射線高度利用施設部)

放射線と生命とのかかわりあい

—そのベネフィットをさらに伸ばし文明の利器とする—

大西 武雄 (奈良県立医科大学 理事・副学長)

(昼食 55分)

セッション3. 環境・資源

(12:50~14:05)

座長 斎藤 恭一 (千葉大学・大学院工学研究科)

3-1 電子ビームを利用した実規模 VOC 排ガス処理技術の開発

箱田 照幸 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

3-2 バイオプラスチックによる眼鏡ダミーレンズの開発

長澤 尚胤 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

3-3 草津温泉水からのスカンジウム捕集に関する研究

瀬古 典明 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

(休憩 10分)

セッション4. バイオ応用

(14:15~15:55)

座長 田中 淳 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

- 4-1 高LET放射線により誘発されるDNA損傷の空間分布と難修復性
横谷 明德 (原子力機構・先端基礎研究センター)
- 4-2 重粒子線がん治療生物研究の新たな展開
浜田 信行 (群馬大学・大学院医学系研究科)
- 4-3 不良環境適応植物ヨシにおける有害金属の動態解析
樋口 恭子 (東京農業大学・大学院生物応用化学科)
- 4-4 医学・ライフサイエンス応用のための高純度RIの開発
石岡 典子 (原子力機構・量子ビーム応用研究部門)

閉会挨拶 南波 秀樹 (原子力機構・高崎量子応用研究所長)

(15:55~16:00)

(コーヒーブレイク10分)

ポスターセッションII. (会場: 展示室)

(16:10~17:30)